

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

唐櫃地区で取り組む防災教育

30年以内に東南海地震は70%、南海地震は60%の確率で発生すると言われていています。加えて唐櫃台は高槻・有馬構造線をはじめ、多くの構造線上に位置し、地震が発生すれば甚大な被害が出ると予想されます。日本に住んでいれば人生のどこかで地震に遭遇すると知っていても、訓練の機会がなければ緊急時に何ができるか未知数です。世代交代が進む教育現場では、災害発生時のノウハウを毎年確実に伝えていくことが必須の要件となっています。唐櫃台地区では、自治会・幼稚園・小学校・中学校・高等学校が一体となって取り組んでいます。

●地域防災教育活動実施

7月15日、神戸北高校で「第2回地域防災教育活動」を実施しました。前回の「水消火器」「放水体験」「バケツリレー」「簡易担架」「地震体験車」に、「煙体験」を加えて6種類の訓練をおこない、炎天下ではありましたが、神戸北高校生581人、唐櫃中学校生徒70人、唐櫃小学校生徒477人、防災福祉コミュニティ50人、そして職員と見学の唐櫃幼稚園児も含め約1,300人が貴重な体験をしました。並行して福祉センターでは

小学4年生の給食用にカレー150食の「炊き出し」がおこなわれました。

リーダーになる生徒は前日に、消防署員の方々から簡潔で実践的な指導をいただき、当日は自信を持って自主的な判断で行動し、訓練の核となり高校生といえども立派に役目を果たせることを示しました。

この活動は消防団、防災福祉コミュニティの皆さまの応援がなければ成り立ちません。また、神戸市消防音楽隊の皆さまには演奏で閉会式に花を添えていただきました。お礼申しあげます。

●神戸北高校 耐震工事始まる

唐櫃台の神戸市指定収容避難所には唐櫃小学校、唐櫃中学校、神戸北高校が指定されております。阪神・淡路大震災において唐櫃小学校は避難所を提供するほかに、屋上タンクの水を住民に提供するなど、防災拠点としての機能を発揮しました。本校は平成22年に神戸市指定収容避難所に指定されましたが、地震被害の影響が残っており、今年度夏ようやく耐震工事が開始されます。

(神戸北高校 教諭 池田邦子)

